

27年9月議会

吹田市における国際交流の可能性

質問

次に、今、私たちが生きる社会を学ぶ横軸の部分、吹田市における国際交流のあり方及び国際理解への促進について伺います。

この部分については施政方針で市長は触れられなかったので、後ほど市長の御意見を伺いたいと思っております。

我が市は関西大学や大阪大学を初めとした多くの留学生が居住する市であり、また多文化理解のきっかけとなる国立民族学博物館があり、海外姉妹都市はバンクスタウンとモラトワと2市もあり、市民にとって外国人との交流のきっかけをつくりやすい環境にあります。まず担当部局に伺います。過去に同僚議員からの指摘もございましたが、担当部長が国際都市吹田と標榜する割に、いまいちその動きが見られないように感じます。

国際交流と一言で言っても、市民が国外に行く交流もあれば、外国人が一定期間我が市に在住する場合、あるいは永住し、住民としてともに暮らす場合などさまざまな形がございます。

市として、どの分野にどのような課題を持ち、その解決のための今後進めるべき具体的施策についてお聞かせください。

また、実施計画を見る限り、国際交流の推進においては国際交流協会との連携が中心となっているようですが、市として国際交流協会に求める働き及び着目すべき事業内容、国際交流協会の事業実施における他団体との交流についてお聞かせください。

小西義人人権文化部長

国際交流におきましては、議員御指摘のように、市民が海外に行く交流や、外国人が一定期間本市に居住する場合、あるいは永住し、住民としてともに暮らす場合など、さまざまな形がございます。

その中で、第3次総合計画では、在住外国籍市民の支援を通して、外国籍市民にとっても暮らしやすい多文化共生のまちづくりを推進することを定めているところでございます。

その支援の方法といたしましては、言葉の壁の解消を目的とした、日本語による会話が十分できない外国籍市民に対する日本語教室の開催や、在住外国籍市民が市内提携医療機関を受診する際の通訳ボランティアの同行事業の実施、また、多言語における生活のガイドブックの作成などを行っているところでございます。

今後は、これらの事業の充実とともに、在住外国籍市民への一層の広報、啓発が必要であると考えております。

次に、本市が国際交流を進めるに当たっては、公益財団法人吹田市国際交流協会との連携が重要となっており、同協会に対しては、本市における多様な文化、言語、習慣、宗教等

を互いに認め合い、地域住民と外国籍市民がともに支え合って暮らせる、多文化共生社会の実現のための事業に対し、補助金等の交付を行っているところでございます。

同協会におきましては、市民主体の国際交流・国際協力、国際化の人づくり支援、在住外国籍市民への支援を本市の国際化の取り組みにおける3本柱と定め、在住外国籍市民への日本語教室の開催や、医療機関への通訳ボランティアの同行事業を初め、異なる文化を理解するための講座や国際交流の情報発信を行うなど、多くの事業を実施していただいております。

また、他団体との交流につきましては、国際交流にかかわる団体がつながり、地域における国際交流、異文化理解、多文化共生、国際協力などの情報交換をすることで、それぞれが連携、協力を目的とした吹田市国際交流団体ネットワークを構築し、連携を進めていただいているところでございます。

今後も多文化共生社会の実現に努め、本市における国際化が市民全体のものとなるよう、さらなる推進が必要であると考えております。

以上でございます。

質問

国際交流協会についてなんですけども、事業報告等を見ておりますと、本当にさまざまな諸団体との連携が見られます。恐らく、その団体と国際交流協会がさまざまなツールを持っておると思いますので、他の部署も国際交流関係についてはぜひ共同でさまざまな事業を実施していただければと思います。

さて、ここからは市長に伺います。

I can speak English. And it's Japanese English. So I usually make a mistake on pronunciation. It's not a big problem at conversation. Of course my English is not good for business. But it's very useful for making friends.

ここから日本語でいきますね。

英語を特に私は得意ではないんですけども、大事なのは、英語が上手にしゃべれるかどうかではなくて、しゃべる勇気であるとか、間違えてもいいやという開き直りかなと思っております。そして、最も大事なのは、日本に来た外国人に対してどのようなことをしゃべるかだと思います。

外国の友人を、例えば神社に連れていくときは神道や作法について話しますし、歴史的な場所、例えば大阪城のような場所に連れていくときは豊臣秀吉や大阪の陣の話をするだけでも喜ばれます。どこで英語を勉強したんだと聞かれることもありますが、私自身は海外に一度も留学したことはなく、中学と高校の受験英語のみが勉強歴でございます。

そのときに、外国の彼らと議論となるのが、日本人は話すことを極端に恐れるということでございます。私の経験でしかございませんけども、大事なのは語学ではなくて、外国人と話すきっかけですね、外国人と話して行って、互いの違いや共通点を知って理解するこ

とこそが国際交流において大事だと考えております。

もちろん、国際社会においては英語が最も便利なツールなので、とても有効で、前市長が進めた英語で話せる吹田っ子ということにも一定賛同いたします。

しかし、同時に進めるべきは児童に外国人と交流する機会をなるべくたくさん与えて、留学することや海外で働くことへの抵抗を少なくし、彼らの可能性を最大限伸ばすことであると考えます。

市長がある団体での講演で、人は教育するものではなく、勝手に育つものだという趣旨の発言をなされました。その点、賛同いたします。しかし、そのためには環境を整えることこそが非常に重要です。

現在、吹田市の国際交流において中心軸がない、そのように感じます。この点について、市長のお考えをまずお聞かせください。

また、今後の国際交流事業においては青少年に対するさまざまな機会の提供ということに柱にすべきだと考えますが、いかがでしょうか。

現在の所管に国際感覚豊かな職員がいない場合は、職員を育成する、あるいは外部の知恵をかりるといったことが必要ですが、今後の吹田市の国際交流のあり方を検討するに当たり、より有効な施策を打てるような体制を整えるべきと考えますが、いかがでしょうか。

小西義人人権文化部長

市長にとのことですが、まず担当部よりお答え申し上げます。

青少年の国際交流につきましては、グローバルな人材を育成する観点からも、未来を担う子供たちが交流の機会を持つことは重要であると考えております。

公益財団法人吹田市国際交流協会におきましては、外国語での絵本の読み聞かせや体験学習の場の提供などの、子供を対象とした国際理解事業を実施しておりますが、今後も同協会や、関係機関と連携しながら、青少年の交流機会を提供してまいりたいと考えております。

次に、国際感覚豊かな職員の配置についてでございますが、定期人事異動に向けた異動希望申告制度の効果的な実施のため、各所属の求める人材等に関する情報の発信を昨年度行っております。人権文化部といたしましても、このような機会を捉まえまして、事業の内容や求める人材像などを情報発信し、人材の掘り起こしを行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

後藤圭二市長

基礎自治体にとりまして国際交流事業は、かつて私たちが直接外国人と接する機会が少なかった時代にその機会を広げるといった行政上の目的、役割がございました。

近年、直接、間接を問わず、旅行や留学、来日外国人の増加、インターネットを通じて、

社会にその機会が飛躍的にふえていること、また、それをお支えするNPOなどの活動が非常に活発になってきているということを、私自身、日々の生活の中でも実感をしているところです。

そういう意味では、若年者に国際交流を行う機会、これを提供するというのは非常に重要な行政上の役割だと思っております。

今後は本市に来訪される外国人市民の増加に対しまして、そのサポートを通じて国際理解をも広げる事業に力点をシフトをする必要性を感じており、その体制の整備を研究してまいりたいと存じます。

以上でございます。

質問

ありがとうございます。指摘させていただいたようにですね、やはりちょっと国際交流、吹田市としてこうあるべきだという中心軸がやはりないように感じるんですね。その部分は、政策決定の部分だと感じますんで、市長の意思等をしっかりと反映された中で、たくさんの有識者の意見を伺いながらではございますが、その部分でしっかりと政策決定していただいて、今後、積極的に、それこそ、前部長が言われました国際都市吹田になるように、積極的に進めていただければと思います。

我が市の国際交流について、少し残念なことがございましたので苦言を呈しておきます。

先日、姉妹都市のバンクスタウン市から市長初め議員団の方々が来られました。正面玄関でお迎えし、その後、委員会室で御挨拶という流れだったのですが、議長、副議長以外の議員は締め出しを食らうという状況でした。通常であれば、海外の姉妹都市の議員団が来られるのであれば、こちらも議員団でお迎えするということが礼儀でございますが、それがかなわず、夕食会には声もかからないという状況です。

国際交流は人と人とのつながりこそが最も大事です。日本とオーストラリアという距離のある状況でせっかくお越しの際に議員同士の関係を深める機会を逃したこと及び担当所管の配慮のなさを非常に残念に感じます。

先ほどの職員体制に触れたのもこのことが大きな理由です。間もなく組織改正がなされるとのことですが、先ほどの吹田市における国際交流のあり方についての担当所管の答弁を聞く限り、今のまま文化のまちづくりの所管とし、(仮称)文化部に置くよりも、地域自治や市民生活を所管とする(仮称)市民部の所管とすべきと考えますが、担当部長の御所見をお聞かせください。

小西義人人権文化部長

人権文化部といたしましては、今回の組織改正でどういった組織になるかにかかわらず、文化施策のより一層の充実、推進に努めてまいりたいと考えております。

もちろん、あわせまして国際交流関係の施策につきましても、より一層の充実、推進に努

めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

意見

先ほどおっしゃった吹田市における国際交流の事業内容が文化なのかどうなのかという部分をしっかり検討していただき、行政経営部のほうともしっかりと御議論いただければ幸いです。